

プログラム名 (40字以内)	芸術の都フィレンツェで文化財保護を学ぶ		
団体名/所属	人文社会系研究科		
活動区分	国際交流体験活動	希望する選考方法	書類審査のみ
募集人数	6～8人	選考対象	大学院学生を含む
活動方法	現地活動のみ		
参加者に求めるもの	英語で議論する能力、伊語力は不問(あればなおよい)。		
活動期間	2025/9/13(土)夕刻～9/19(金)午後を終了	主な活動予定場所	フィレンツェ市内
プログラム実施の目的	フィレンツェ大学生との交流会(合同ワークショップ)、ラウレンツィアーナ図書館での世界遺産登録の貴重書閲覧、ロンディネッリ邸ボルチナーイ資料館でアーカイブ学研修、洗礼堂修復現場の見学を通じ、文化財保護の精神、理論と実践を学ぶ。		
具体的な内容(800字程度)	東京大学とフィレンツェ大学は、これまで「東京大学フィレンツェ研究教育センター」(1999-2006年度)の活動等を通じ、長年関係を培ってきました。現在は、連携協定の再締結を経て、各種共同プロジェクトを再び活発化させているところです。 歴史と芸術の街フィレンツェは、都市そのものが文化財であるとも言え、今回の体験活動において、その世界的に貴重な文化財をめぐる諸問題を、現地の研究者や学生とともに学びます。中でも文化財の保全保護は喫緊の課題であり、美術館・博物館に収蔵されている芸術作品や、図書館やアーカイブの貴重書・文書史料、さらには歴史的建造物といった文化財の姿と価値をいかにして保持し、次代に伝えていくか検討します。 現地での活動期間(7日間)を通じ、ウフィツィ美術館見学、ボルチナーイ資料館でのワークショップ、ラウレンツィアーナ図書館での貴重書閲覧(世界遺産登録)、サン・ジョヴァンニ洗礼堂修復現場の見学(特別許可)、フィレンツェ大学学生と交流、チェルトーザ・ディ・ガッルツツォ修道院見学(ガイド付)、東京大学とフィレンツェ大学の共催による聖地シンポジウム(巡礼の道・熊野の例)への参加といった活動をしていきます。そうして建築物や美術品の修復現場取材し、現場で作業にあたる人々の仕事について、内側から学びます。 フィレンツェ出身の本学教員と上記センター勤務経験のある教員、および西洋美術史の教員等の支援の下、フィレンツェの文化財に関わる専門家たちと接しながら、密度の高い日程をこなすことで、表層に終わらない貴重な体験を得るでしょう。なお、参加学生には、フィレンツェ大生とも積極的に交流してもらうことになります。		
【総額】参加するための費用	約400,000円(為替レートにより変動の可能性あり)		
【内訳】参加するための費用(宿泊費)	最短6泊7日の宿泊費と滞在費で120,000円		
【内訳】参加するための費用(交通費)	航空券240,000円程度		
【内訳】参加するための費用(その他)	エクスカージョン等費用40,000円		
奨励金額(予定)	80,000円		
備考	事前に引率教員と3回のオンラインミーティングを行います。宿泊については、他の参加者とのシェアアパート(共同生活)となる可能性があります(参加学生自身が手配)。		
活動に関する関係資料のダウンロードサイト			
応募団体を紹介するウェブサイト等(団体で応募の場合)			
この企画に対する担当者(応募団体)の参加の有無	参加する		